

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市八幡町 2-14-22
園名	東久留米市立はちまん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体づくり（0歳児クラス・1歳児クラス）

<テーマの設定理由>

広い庭があり、固定遊具や築山もある園でもあり、身体を動かせる環境であることを活かし「身体づくり」をテーマに設定する。

2. 活動スケジュール

- ・年間・・・歩き始めた子どもたちの発達を丁寧に見ていく。身体の動きに応じて、看護師とも連携をとりながら、赤ちゃん体操なども取り入れていく。
- ・春・・・子どもたちの生活も落ち着いてきたところで、毎日の活動の中で意識してリズム活動をしていく。
- ・夏・・・マットを1歳児室内に設置。
- ・秋頃・・・身体の動きも大きくなってくるので、状況に応じてマットの組み合わせを変更していく。
外でも過ごしやすい気候になってくるので、園庭でも走ったり、ロンパーカー、三輪車に乗って体を動かして遊ぶ。また、散歩先も体を動かせる場所を選び、歩いて散策する。
※講師の先生によるアメリカンリトミックへの参加。音楽を聴きながらリズムに合わせて心地よく身体を動かす。
- ・冬頃・・・身体の動きを見ながら、その都度マットの設置場所も変化させる。
引き続き、園庭、散歩先等、身体を動かせるように工夫していく。
寒い時期なので、ホール等も使用しながら身体を動かしていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

はいはいアスレチックマット(さかみち)(かいだん)・マット・ウレタン積み木・バランスブロック・牛乳パックで作った乗り物・講師の先生・スピーカー・アンプ・楽器・カメラ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・1歳児室に<はいはいアスレチックマット>のさかみちとかいだんを組み合わせて設置する。
- ・「おうまのおやこ」や「どんぐりころころ」などの歌に合わせてハイハイしたり、ゴロゴロと転がったり楽しく身体を動かす。
- ・講師の先生と手遊びや、ピアノの曲に合わせて体を揺らしたり歩いたりする。大きな不織布を歌に合わせて動かし、しゃがんだり立ったりする。色々な楽器に触れ、握ったり揺らしたり自由に動かす。
- ・アスレチックマットを使いハイハイ、歩く、走るなど、いろんな動きで楽しむ。また、牛乳パックで作った乗り物にまたがり、足で床を蹴って少しずつ進む。
- ・活動の時間に各部屋でリズムを楽しむ。大腿で歩く、走る、ハイハイするなど色々な動きを楽しむ。
- ・ホールも使用し、部屋よりもダイナミックに走ったり止まったりのリズムを繰り返して楽しむ。また、ウレタン積み木を使ってでこぼこ道を作り、バランスを取りながら歩く、よじ登るなど、楽しみながら身体を動かす活動も行う。
- ・バランスブロックを並べ、一本橋を作る。自分でバランスを取りながら渡ってみる。
- ・手を繋いで歩いて散歩に行く。途中、危険のない場所を選びながら、自分で歩く、しゃがんでみる、よじ登るなど体幹を整える動きを取り入れる。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・マットを常設することで、子どもたちから自然とハイハイする姿もあった。階段のパーツはそこに腰かけて本を読んだりすることも多く、姿勢保持にも繋がっていると感じる。
- ・歩行や動きも安定してきた子が多く、音楽に合わせて楽しく体を動かすことができた
- ・アメリカンリトミック歌に合わせて少しずつ体を動かし始めた。特に、曲に合わせて歩いたり止まったりする場面では、子どもたちもよく曲を聞いて自分で動きを考えているような姿がみられた。2 回目は前回の経験もあり、序盤から子どもたちはリラックスした表情だった。身体の動かし方もスムーズになり、「もっかい」と繰り返しやってみたり、手遊び等の歌も覚えて口ずさんでいた。
- ・大人が意識し身体を動かす時間を作ることで、座る姿勢、転び方などに変化が見えてきた。



- ・はいはいアスレチックマットを設置すると、意識してハイハイをして、「みてみてー」と保育者にやってみせる姿が見られた。
- ・リズム活動では保育者が歌いながら動き出すとすぐに真似して楽しんでいる。
- ・アメリカンリトミック、歌に合わせて子どもたちは少しずつ体を動かし始めた。「もっかい」と繰り返しやっ
てながら、手遊び等の歌も覚えて口ずさんでいた。
- ・ウレタン積み木やバランスボードの一本道は、“楽しそう”とすぐにやってくるバランスをとりながら渡り始める姿が増えてきた。また、「橋の下にワニがいる！」との子ども達の声からイメージが湧き、落ちないようにというドキキ感も加わり、更に楽しめる姿もあった。
- ・散歩では子どもたち自ら「あるく！」と伝えてくる。しゃがんで見つけたものを拾ってみたりもしている。
- ・散歩先の公園遊具では半分埋まっているタイヤの上を登ろうとする姿もあり、体の使い方も上手になってきている。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市八幡町 2-14-22
園名	東久留米市立はちまん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音（体験したことを共有して楽しむ）1，2歳児クラス・2歳児クラス

<テーマの設定理由>

以前より複数の園児が楽器の音に興味があり、楽器で遊びたい意欲が高まっている。
楽器を使って音色の豊かさを体感する。
活動の中でたくさんの音・リズムに触れ、園児同士楽しさを共有しながら音への興味関心を深めていくため。

2. 活動スケジュール

- ・はじめて触れる楽器の感触、音などを体験し、音の変化などを感じる。
- ・音楽を流し、そのリズムに合わせて手や足で音をだし、遊ぶ。
- ・年間5回、リトミックの講師の先生との活動。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

講師の先生・スピーカー・アンプ・楽器・カメラ・クッションマット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・楽器で遊ぶ。

見慣れない楽器に触れる。音を出す。音楽にあわせリズム遊びを楽しむ。（エッグシェーカーを振り、音をならすなど。）

- ・音に合わせて身体を動かす。

・木のステックで「山の音楽家」の曲に合わせて色々なならし方をしてみる。沢山の楽器の中から、好きな楽器を選んで好きなように曲に合わせてならす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・一人ひとり鈴をもらおうと、自分でつけてみようとする姿が見られた。エッグシェーカー（卵型のマラカス）をならしてみても音がでる面白さを感じる。

- ・象の動きになると「ぱお～ん」と大きな声で言いながら腕を鼻に見立てて動かし、音楽に合わせて鼻をふる。

- ・好きな楽器を選んで音を出し、音楽に合わせてならす。音の違いに気づきいろいろな楽器に変え、音を楽しむ。

- ・曲を聞いて体を動かして踊る。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・繰り返すことで自ら楽器を選び、音を出してたのしむように変化してきた。
- ・決まった音で<片付けるんだ。>と意識できるようになってきた。
- ・「またやりたい!」と期待する姿がみられた。
- ・大人と楽しむ姿から、友だち同士で楽器を交換する、友だちや大人と一緒にならして遊ぶ、などの姿が見られた。
- ・保育システムを活用し、保育士同士で報告をし、共有し、次への活動の工夫を考えた。
- ・音に合わせて動き、「止まる」の声で身体を止めることを遊びで体感した。繰り返すことで他の遊びでも「止まる」「動く」などがスムーズになっていく姿が見られた。
- ・「リトミック 楽しかった!」と子どもが発言していたことから活動を期待する姿がある。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都東久留米市八幡町2-14-22
園名	東久留米市立はちまん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

3歳クラス 身近な自然、生き物

<テーマの設定理由>

園には園庭があり、花壇やプランターが豊富にあることから、「自然・虫や生き物」をテーマとして設定した。身近な生き物に触れ、生き物が成長する様子を観察することにより、さらに興味関心を深めたいと考えた。

2. 活動スケジュール

春・・おたまじゃくしの飼育を始める。観察をする。

興味のある子は餌をあげてみる、触ってみる、図鑑や本で調べる。

変態してカエルになったので、触ってみる。5月末子どもたちに伝え、逃がす

夏・・プランターにオシロイバナの種をまく。観察をする。

随時水やりをする。土を足す。

バッタを飼育ケースに入れ、観察をする。

バッタに触ってみたり、大人と一緒に飼育箱の中の草や水をかえてみる。

バッタを飼育箱から出して触ったり、跳ねていくのを見たり追いかけて捕まえたりする。

バッタを逃がす

オシロイバナの芽の間引きをする

秋・・花を使ったあそびを楽しむ（色水づくりや砂遊びなど）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・飼育ケース ・図鑑や関連する生き物の絵本・おたまじゃくし
- ・飼育のためのえさ ・プランター・オシロイバナの種・培養土
- ・ジョーロ ・図鑑や関連する生き物の絵本・バッタ 餌となる植物を育てるためのプランター・土

4. 探究活動の実践〈活動の内容〉〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

○生き物

- ・プランターに土を入れ、混ぜてみる。土に触ってみると、砂とは違う感触に驚いていたり「やわらかい！」「気持ちいい！」と楽しそうに混ぜていた。
- ・バッタを持ってきたところ、興味津々で、バッタが跳ねる度に「うごいた！」「ピョンってしたね！」と友だちや大人に驚きを伝えたり、バッタの動きを真似て跳ねたり、「お口ってどこなの？」とじっくり観察する姿があった。
- ・バッタの抜け殻に気づき、「しんでる！」と驚いている友だちに「だっぴだよ～」と教えてあげる子がいた。『だっぴ』という絵本を読むと、色んな生き物がだっぴすることがわかり、バッタのページでは「おんなじだ～！」と飼っているバッタを思い出し、伝える姿があった。

○植物

- ・種を手にする「ちっちゃーい」「黒いねー」など種の様子を見て友だちや大人に見せる姿があった。
- ・大人がジョーロで水やりを始めると「やりたい」と始め、あそびの中で水やりを自らする姿がありそれを見て他の子たちもまねして「ジョーロちょうだい」と仲間が増えていった。絵を描いて看板づくりをした。自分の中のイメージでお花や虫の絵を描いていた。
- ・咲き終わった花を摘んでビニール袋に入れて色水あそびをした。自分たちで摘んだりもんだりしてきた色水を「きれいでしょ」と見せ合ったりしまっておいたり大切にしていた。
- ・園にある おたまじゃくしの載っている図鑑を開いて「これとおなじ！」と友だちに見せていた。
- ・おたまじゃくしに足が生えてきたのを見て「羽が付いてる！」とびっくりしている子や、「形がかわった！」と変化に気づいた子もいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・バッタやカマキリの飼育を通して、じっくり観察したり、触ってみたり、バッタの動きを真似してみたり、と興味を持つ子が多かった。生物の生態に興味を持ち、知ろうとする姿があった。
- ・大人が餌や水をやる様子を見て、観察するだけではなく「やってみたい！」と手伝ってくれる子がいて、生き物に対して愛着を持つ姿が見られた。
- ・「どうして～するの？」と知りたい！と探究心、好奇心が芽生えているのが分かり、実際目の前にいるバッタの動きを見たり 匂い、感触、音などから知ることも多く、実際に育てたからこそ得る知識や感じた事は子どもにとって大切な物だと思った。
- ・色水あそびをしたときにいろんな色の花を入れると虹色になると思っている子がいて、発想が子どもらしくてかわいいなと思った。
- ・保育総合システムを利用し、保護者に活動内容を伝えることで、親子の会話になったり、生き物を育ててみたい関心がより深まった。
- ・初めて オタマジャクシを見る子もいて、興味津々だった。かえるのことも、オタマジャクシのことも知っているが、カエルの子がオタマジャクシという事は知らなかったようで、飼育を通して、図鑑を見て知ったり、だんだんと変化してカエルになっていく様子に驚いている子もいた。
- ・オタマジャクシから足が生えた時、大人は「足」だとわかったけれど、初めて見た子には羽に見えたり、形が変わって不思議だな・・と感じるのだと、子どもの言葉から気づかされた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都東久留米市八幡町2-14-22
園名	東久留米市立はちまん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

5歳児 4歳児 自然 自然の中の食材

<テーマの設定理由>

当園は日当たりがよく、食育に取り組んでいる特徴を活かし、「自然～食育」をテーマとして設定する。

年長児は野菜を栽培することに興味を持っており、野菜の生育を通じて野菜の種類を知ることができるとともに、大切に育てた野菜を収穫し、

その野菜を調理して美味しく食べることで、野菜好きになっをてもらいたいと考えるため。

2. 活動スケジュール

春・子どもたちと野菜の苗を相談する。

砂、どろんこで遊ぶ

苗を買いに行く。看板を作る。

春、夏・プランターで水やりや、観察を重ねる。

収穫をし、調理体験をする。

秋・砂団子を作る

泥団子を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

苗を育てるためのプランター・土・苗・肥料・カメラ・液晶テレビ

<活動の内容>

野菜

- ・グループごとに何を育ててみたいかを話し合い、それをクラスの中で出し合い、育ててみたいものを決める事から始めた。
- ・みんなで近くのお店に苗を買いに出かける。
- ・苗を植え水もあげながら、観察をする。
- ・わからないことは図鑑で調べみんなで共有する。
- ・収穫できる時期を待ち、みんなで収穫し、調理する行程を近くでみてにおいなども感じる。
- ・写真に撮り、保護者の方にも共有。保護者会で動画映像を流し、共有する。

泥あそび

- ・砂場に水をためることで、砂が変化し泥状になっていく様子や、変化する感触を経験する。
- ・砂で、団子を作ってみる。砂の団子では崩れること、磨けないことを知る。専用の土と水を配合することで、砂と土の違いに気づく。粘度の違いや固さ、丸めやすさも感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・野菜の成長を期待し、観察。みつけたことを大人に報告してくれたり、水やりなども主体的に取り組む様子がみられた
- ・みんなで育て、食べる経験をする中で、いつもはその野菜を食べない子が少し食べてみたり、食べて美味しい！と大人に伝えたり、食べられた！という嬉しい経験につながった子もいた。
- ・ダイナミックに遊ぶだけではなく馴染みの素材で変化を楽しみ、その中でじっくり遊ぶことができると気づけた。
- ・丸める動作も繰り返すことで手先の動きに変化があり、団子作りが巧みになっていった。
- ・失敗することで落ち込んだり、チャレンジするのが苦手な子が、何度も挑戦する姿があったり、友だちに聞いたり、助けてもらったり、教えてもらったり、励まされたりする中で、友だちへの興味や関心が深まったことがとても大きな成果だと感じる。
- ・きれいにできると、「みてみて！」と報告し、達成感を感じた子もいたり、「明日もやろう！」「おやつ食べたら、つづきやろう」と仲間を誘い合う姿も見られたりしたので、引き続き楽しんでいきたい活動と経験になった。

